

雨 をしのぐためだけなら百円
でビニール傘が手に入る。

そんな時代に、高価なオーダー傘
をつくる意味って、何ですか？

オーダーメイドの傘の注文を受
けている、ムーンバット株式会社
の洋傘事業部、大原孝二部長は、
一本のオーダー傘を開いてみるよ
う、すすめてくれる。パチッ、と
快い音が響き、重く確かな手ごた
えとともに、傘がすっと開ききる。

「高級車は、ドアを開閉するとき
の、音や手ごたえが違うでしょ
う？ 傘も同じです」

開閉のときに活躍する金具は、
ハジキと呼ばれる。高級車のドア
を開けるときに覚える官能的な快
感が、ハジキが鳴る瞬間に、たし
かに走る。

さらに、いい傘は、雨を受ける
ときに、雨粒の音がするという。
雨の日に「高級車でドライブート
音楽会(笑)」できるオーダー傘は、
ムーンバット専属の傘職人が、手
作業をつくる。大原部長が絶大な
信頼を寄せる熟練職人の一人が、
ほかならぬ、東田稔さんである。

「雨がこの世に降らなくなるこ
とはなからう、ならば、傘もなくな
らんやろう」と東田さんが洋傘の
仕事にとびこんだのが、18歳のと
き。当時百人ほどいた京都の傘職
人から「オヤジさん」と呼ばれて
いた親方のもとに住み込み、修業

を積む。10年後、独立し、修業時
代に出会った奥様の敏子さん(63)

と共に、傘づくり一筋に生きる。

「大原さんが「できるあがりはこう
いう感じ」と言うてデザインのア
イディアをもっと「なるんですわ。
作り方は言うてくれまへん。それ
を、じゃあ、いかに傘にするか？
と考えながら、そのときそのとき
に応じたものをつくるのが、わた
しの仕事ですわ」と東田さん。

大原部長と東田さんとの関係は、
編集者と作家のようなものでしょ
うか？「こんな書いて」と注文
する編集者と、「じゃあ、どう文章
にするか？」と考える作家の図、
みたいなの？

「それはようわかりませんが、と
きどき無理難題、言うてきますわ
(笑)。いちばんしんどかったのは、
「二枚張りの傘をつくれ、言われ
たときかな。ふつうは、木型に沿
って裁断した二等辺三角形の生地
を縫い合わせて、大きなクロスを
つくってから骨に縫い付けていく
んですよ。でもそのときは、生地
を裁断せずに一枚の布でやれ、と」

東田さん「ふつうは……」なん
てさらっと言うてますが、仕事場
の壁に無数に並ぶその木型は、
実はすべて、東田さんの手作りな
のである。傘のフォルムはかりか
生地の性質や色に合わせて、一本
一本、異なる木型が使われる。木

型には、無数の鉛筆書きのメモ。

「同じ生地でも、濃い色のほうが
伸びにくい。作りながら気づいた
そんなことを、書くて「なるですわ」

生地をそうやって「読む」経験
を積んできたからこそ、「この生地
は髪の毛一本分、木型の外側を切
る」なんて判断が下せる。髪の毛
一本分が、「雨粒の音楽」をよりリ
ズミカルにする「張り」の違いと
なって現れる。

「「裏」の、二重張りの傘」をつ
くれ、言われたときもきつつかっ
たな。なんとか、やりましたけ
ど(笑)「無理難題をぶっかけ続け
る大原孝二と、その期待に確実に
応えていく東田稔。

そのふたりのコラボレーション
が、ついに、傑作を生み出す。
カナダのアーティストがデザイ
ンした、貝殻がモチーフの「パラ
シェル」である。非対称のフォル
ムを見た当初、東田さんは「ムリ
や、できるわけ、あらへん」と言
った。しかし大原部長は、東田さ
んならできる、と信頼する。「じゃ
あないので」東田さんは、試行錯
誤を繰り返して、ついに完成。力作は
2005年から商品化されている。

東田さんは、振り返る。「パラス
シェルはほんとうにたいへんやった。
奇跡的にあれができたのは、「一枚
張り」の、「二重張り」の、「む
ずかしい注文をこなしてきたから

Who's who 卒業

アンブレラ

東田稔 63歳



こそ、やな。あの経験が生きてい
たからこそ、パラスシェルができた」
一本一本、わがままな注文に完
璧に応じていくことにより、東田
さんも着実に腕を上げてきたわけ
である。傘をオーダーすることは、
そんなスーパー傘職人を(僭越な
がら)育てることにもつながって
いるのかな……とふと思えること
もまた、オーダー傘が与えてくれ
る幸福のひとつかもしれません。■

中野香織 文

text:kaori Nakano

福知彰子 写真

photographer: Akiko Fukuchi

